

# うらしまたろう Urashimatarou

Urashima and the Kingdom Beneath the Sea

---

むかし、むかし、そのまたむかし、海<sup>うみ</sup>の村<sup>むら</sup>にうらしまたろうというわかものがおかあさんとふたりですんでいました。ある日、いつものようにさかなつりにでかけたら、はまべで子どもたちがかめをつかまえ、たたいたり、けったりしていました。「なんてむごいことを。」うらしまたろうはかめがかわいそうになりました。

そこで子どもたちのところへ行って、「これこれ、そのかめをどうするつもりだ。」といいました。「まちへうりにいく。」いちばんとしようのこどもがいました。「そんならわしにゆずっておくれ。」うらしまたろうはこどもたちひとりひとりにお金<sup>かね</sup>をあげました。こどもたちはよろこんでかめをわたしてくれました。

「もう二どとつかまるんじゃないぞ。」子どもたちがいなくなると、うらしまたろうはかめを海へにがしてやりました。かめはうれしそうにくびをふっていました。やがてなみのなかへきえていきました。

つぎの日、うらしまたろうが、いわのうえでさかなをつっていると、海のなかからかめがあらわれ、「うらしまさん、うらしまさん。」とよびました。うらしまたろうはびっくりしてかめをみました。

「わたしはきのういのちをたすけていただいたかめです。おれいにりゅうぐうへあんないします。わたしのせなかにのってください。」いうなり、かめは大きなかめになりました。

うらしまたろうがかめのせなかにのると、なんだかいいきもちになってきて、いつのまにか、ねむりこんでしまいました。「さあ、りゅうぐうにつきましたよ。」かめにおこされ、はっと目をあけたら、みたこともないりっぱなごてんがたっていました。やねには金<sup>きん</sup>のかわらがらび、かべは銀<sup>ぎん</sup>とるりでできていました。

門<sup>もん</sup>をくぐると、おとひめさまがたくさんの女のひとたちといっしょにおもてへでてきました。（なんてきれいなひとだ。）あまりのうつくしさにうらしまたろうはこえもできません。「ようこそおいでになりました。かめをたすけていただいてありがとう。」おとひめさまはすずのなるようなこえでいいました。

おとひめさまはうらしまたろうをごてんのなかへつれていきました。ゆかはだいいせきできていて、金<sup>きん</sup>びょうぶのまえには、しんじゅやかいがらをちりばめたつくえがありました。つくえのうえには山のようなごちそうがならんでいます。「さあ、めしあがれ。」おとひめさまがおさけをついでくれました。

（なんてうまいさけだ。）うらしまたろうはおもわず目をつむりました。こんなおいしいさけはのんだことがありません。やがておんがくがきこえてきたかとおもうと、いろとりどりのぬのを手<sup>て</sup>にした女のひとたちがあらわれ、しずかにおどりはじめました。うらしまた

ろうはなににもかもわすれてうっとりとながめました。

まるでゆめのようなまい日が過ぎていきました。ところがある日、うらしまたろうはふと、おかあさんのことをおもいだしました。そのとたん、きゅうにいえがこいしくなりました。

「ながいことお世話になりましたが、そろそろいえにもどらなくてはなりません。」うらしまたろうがいました。するとおとひめさまがいました。「いつまでもあなたといっしょにくらしていたかったのに。でもしかたありません。」

あとひめさまはうるしぬりのたまてばこをもってきました。「これはおみやげのたまてばこです。わたしだとおもっていつまでもたいせつにしてください。どんなことがあってもけっしてふたをあけてはいけません。」「わかりました。おとひめさまのしんせつはいっしょうわすれません。」うらしまたろうはよろこんでたまてばこをもらいました。

「それではわたしのせなかにのってください。」かめがでてきていました。うらしまたろうはたまてばこをかかえてかめのせなかにのりました。「さようなら。」うらしまたろうも手をふりました。そのとたん、なんにもかもわからなくなりました。

ふときがつくとうらしまたろうははまべにすわっていて、みたこともないひとたちがふしぎそうなかおでたっていました。うらしまたろうは、あわててじぶんのいえのほうへかけていきました。どこへきえてしまったのかじぶんのいえもなく、おかあさんのすがたもありませんでした。

（そんなばかな。）うらしまたろうはすっかりかわってしまった村のあちこちをあるきまわりました。でもしっているひとはひとりもなく、いえのことやおかあさんのことをたずねてもくびをかしげるばかりです。わずか<sup>いち</sup>一ねんほどりゆうぐうでくらしたとおもっていたのに、ほんとうは三<sup>さん</sup>びやくねんもたっていたのです。

うらしまたろうはたまてばこをかかえてはまべへもどってきました。むかしとかわらないのは海のけしきだけです。（こんなことならもどってくるんじゃないかった。）いくら海をながめても、りゆうぐうへつれていってくれるかめはもう二<sup>に</sup>どとあらわれませんでした。

かなしくなったうらしまたろうは、おとひめさまとのやくそくをやぶってたまてばこのふたをあけました。そのとたん、はこのなかから白<sup>しろ</sup>いけむりがでて、うらしまたろうは、たちまちおじいさんのすがたになってしまいました。